



30

30 楠正行如意輪堂に歌を題するの図 高橋由一

明治二十五年（一八九二） 油彩・カンヴァス  
六二・七×九九・二

31 織田信長ひそかに密勅を五老臣に示すの図 高橋由一

明治二十六年（一八九三） 油彩・カンヴァス  
六二・六×九九・〇

この二図は、日本洋画の先駆者高橋由一の最晩年の作品として知られている。本図の制作については『明治天皇紀』にも記載があり、明治二十五年に宮内省から制作依頼があったことがわかる。それによると、同二十五年十二月二十七日にまず「楠正行如意輪堂に歌を題するの図」が献上されたことに對し金百五十円が、翌二十六年三月二十七日に「織田信長ひそかに密勅を五老臣に示すの図」が侍従子爵西四辻公業を経て献上されたことによつて、金二百五十円が賜与された。

「楠正行如意輪堂に歌を題するの図」は、楠木正行が四条畷の戦いにおもむく際、死を覚悟した正行が、如意輪堂の扉に矢をもって一族郎党の名前と辞世の句を刻んだという逸話を描いた作品である。浮世絵版画などでは、実際に正行が矢で扉に和歌を刻んでいる姿が描かれたが、由一が描いたのは正行が矢を後ろ手に持ち、ちょうど扉に辞世を刻み終えたところのようである。本図では開き具合の關係で扉の存在は目立たないが、本図の下絵と見られる水彩の「如意輪堂ニ於ケル小楠公図」（東京国立博物館蔵）では、扉がより大きく描かれ画面左端の大半を占めている。改変が加えられた本図では、薄暗い堂内を描き足すことで、正行を画面の端に追い遣らないよう注意が払われている。右手後方で出陣を待つ正行の軍勢は旗印や軍馬の影などでわずかに暗示されるのみで、由一の意識はその手前の樹木や地面に生える草の描写に向かっている。ほかにも正行の鮮やかな軍装、堂の縁板など、画面の隅々にまで由一の徹底した追真的描写の追究がなされている。





31

「織田信長ひそかに密勅を五老臣に示すの図」は、正親町天皇の勅使として禁裏御倉職であった立入宗継が尾張清洲城にいた織田信長に上洛をうながし、その密勅を信長が臣下に示している場面である。「楠正行如意輪堂に歌を題するの図」とほぼ同寸であるが、上辺と下辺を影がかかったような暗色で塗られているため、そのぶん画面が横長であるかのような印象を与える。また、部屋全体は透視図法を意識して描かれているものの、距離感が失われた五老臣の重なりとともに、どこにでも焦点を当てて緻密に描き込もうとする由一の熱意によって、どこか不自然な空間表現となっている。楠木正行と同様、本図にも下絵と見られる水彩「立入宗継内勅ヲ織田信長ニ伝フル図」（東京国立博物館蔵）が存在し、水彩作品では床が正面奥に描かれ、やはり本画制作に際して大きな構図変更がなされたとみられる。二点ともに画家のサインはないが、本図のみ画題が右下に記されている。制作当時、由一は胃病を患って病床にあったと伝えられているが、両作品とも細部まで手を抜いていない作者畢生の力作であり、晩年においてもなお枯れることのない作画への意志が伝わってくるようである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections